

## 第2章 奈良市水道事業の沿革

### 2 - 1 創設期（木津浄水場の築造）

奈良市の上水道は明治42年（1909年）市是調査会において初めて水道布設が正式に提議されました。その後5年以上にわたる水源探索の結果、木津川を水源とするとの結論に達し、大正4年（1915年）10月事業認可を得て木津川沿岸の京都府相楽郡木津町大字鹿背山で木津浄水場を築造し、大正11年（1922年）9月30日に給水を開始しました。その後人口増加と衛生思想の向上により使用水量が増加し、そのため昭和9年（1934年）に第1期拡張事業の認可を受け、施設の拡充に努めました。

終戦後は、連合軍優先給水のため断水や時間給水を余儀なくされましたが、応急拡張事業により施設改良工事を実施し、事態の解決を図りました。

その後、町村合併促進法による隣接町村との合併が相次ぎ給水区域は拡大し、施設の拡張が必要となり、昭和32年（1957年）4月から第2期拡張事業として木津浄水場の整備と送・配水管の増設等を実施しました。



三条通配管工事（大正7年（1918年））



水道通水パレード（大正11年（1922年））

## 2 - 2 拡張期（自然流下水源導水路事業と緑ヶ丘浄水場の築造）

昭和 25 年（1950 年）10 月に制定された「奈良国際文化観光都市建設法」に基づき水道整備が急務となり、本市水道の基盤ともいえる自然流下水源導水路事業の構想を打ち出しました。これは市の宿命ともいべき恵まれない水利の問題を一挙に解決しようとするもので、本市の東部地域を流れる布目川・白砂川に水源を求め、自然流下によって導水する



須川ダム建設工事

大規模な水道施設の建設事業であり、昭和 34 年（1959 年）3 月正式に樹立しました。昭和 39 年（1964 年）には須川ダム建設を中心とした第 3 期拡張第 2 次事業がスタートし、昭和 44 年（1969 年）7 月須川ダムが完成しました。

この間、昭和 30 年頃からの西部地区の急激な住宅開発による人口増加のため、緑ヶ丘浄水場の新設等を中心とした第 3 期拡張第 1 次事業を昭和 36 年（1961 年）度から実施していましたが、昭和 41 年（1966 年）夏季に大規模な断水を招き、急遽 7 本の井戸をさく井し、需要に対処するとともに給水制限等の措置を講じました。こうした急増する水需要に対処するため、自然流下水源導水路事業完成と同時に失効することになっていた木津川水利権の復活を前提として、昭和 43 年（1968 年）4 月から第 3 期拡張第 3 次事業として、緑ヶ丘浄水

場の増設・市内主要送・配水幹線の 신설工事に着手し、昭和 47 年（1972 年）3 月に完成しました。

自然流下水源導水路事業はこうして昭和 36 年度から昭和 46 年度まで 11 年間をかけて一部を除いて完了しました。

その後、奈良県営水道と昭和 49 年（1974 年）から受水するとの協定を締結し、それに伴う受水施設の拡充を主とした第 4 期拡張事業を実施しました。

昭和 50 年代に入っても住宅開発は衰えず、昭和 61 年（1986 年）には給水人口 35 万人になると予想され、かつ下水道の普及など生活様式の向上により現有水源及び施設能力を大幅に上回ることが見込まれたため、水源を水資源開発公団（現 独立行政法人水資源機構）により建設される布目ダムに求め、昭和 52 年（1977 年）7 月に事業認可を得て第 5 期拡



自然流下水源導水路事業  
（第 4 号隧道）

張事業を実施しました。緑ヶ丘浄水場浄水施設の拡張、配水池などを増強し、昭和 57 年度（1982 年度）に全ての工事が竣工しました。平成 3 年（1991 年）10 月に布目ダムが完成し、平成 4 年（1992 年）4 月 1 日に供用開始されたことにより、日量 76,000m<sup>3</sup>を増量し合計日最大 150,000m<sup>3</sup>が取水できることになりました。

## 2 - 3 現在（市民皆水道と水源の安定化）

奈良市の面積の半分以上を占める東部地域等には、18 か所の簡易水道と水道未普及地域が残されていました。これらの地域で上水道での給水要望が起こり、また同地域での下水道整備事業に対応するため、上水道未普及地域の解消が急務となりました。

このため、平成 3 年（1991 年）10 月に上水道給水区域を奈良市全域に拡張し、計画給水人口 400,000 人、計画一日最大給水量 247,400 m<sup>3</sup>とする第 6 期拡張事業の認可を得て事業に着手しました。平成 15 年（2003 年）3 月にはすべての地域の事業が竣工し「市民皆水道」が達成されました。

また平成 11 年度（1999 年度）に供用開始された比奈知ダムから日量 51,840m<sup>3</sup>の水利権を獲得し、布目ダムの水利権と合わせ本市の長年の懸案であった水源の確保と安定化がようやく達成できました。

平成 17 年（2005 年）4 月に奈良市は月ヶ瀬・都祁両村と合併しました。しかし両地区については地方公営企業法適用外の簡易水道事業で、現在法適用化に向け整備しているところであり、一般行政での運営となっています。



大慈仙配水池築造工事

表 2 - 3 - 1 水道事業拡張計画の経過概要

名 称	認 年月日 可 番号	目標 年次	起工 竣工	計画給水 人 口	計画一日 最大給水量	事 業 費	水 源	水 利 権
創 設	大 4.10.23 内奈衛 34	-	大 5.11 " 11.9	人 50,000	m <sup>3</sup> 6,250	千円 1,541	木津川	木津川 0.076m <sup>3</sup> /s
第 1 期 拡 張	昭 9. 8. 1 内奈衛 48	昭 13	昭 9.8 -	38,000	10,400	25	"	木津川 0.136m <sup>3</sup> /s
応急拡張	昭 22.8.27 復特 2499	昭 30	昭 22.8 " 29.3	74,000	21,200	145,207	"	"
第 2 期 拡 張	昭 32. 4.13 厚奈衛 308	昭 40	昭 32.4 " 35.3	112,000	35,000	372,372	"	木津川 0.5m <sup>3</sup> /s
第 3 期 第 1 次 拡 張	昭 36. 12.4 厚奈衛 123	昭 40	昭 36.12 " 41. 3	137,000	42,500	1,162,906	"	"
第 3 期 第 2 次 拡 張	昭 39.3.30 厚収環 117	昭 50	昭 39.4 " 46.3	225,000	74,250	3,077,347	布目川 白砂川	(木津川 0.5m <sup>3</sup> /s) 布目・白砂川 0.86m <sup>3</sup> /s
第 3 期 第 2 次 緊 急	昭 42.2.22 厚環 160	昭 50	昭 42.4 " 43.3	225,000	88,250	106,563	地下水	"
第 3 期 第 3 次 拡 張	昭 43.3.30 厚環 330	昭 50	昭 43.4 " 47.3	261,000	117,450	2,709,591	木津川 布目川 白砂川	木津川 0.5m <sup>3</sup> /s 布目・白砂川 0.86m <sup>3</sup> /s
第 4 期 拡 張	昭 46.3.31 厚環 341	昭 51	昭 46.4 " 52.3	300,000	150,000	3,285,944	木津川 布目川 白砂川 県営水道	"
第 5 期 拡 張	昭 52.7.19 厚環 455	昭 61	昭 52.7 " 58.3	350,000	216,300	4,452,781	"	木津川 0.5m <sup>3</sup> /s 布目・白砂川 0.86m <sup>3</sup> /s 増量(0.88m <sup>3</sup> /s)
第 6 期 拡 張	平 3. 10. 8 厚生衛 752	平 12	平 3.10	400,000	247,400	27,552,000	"	木津川 0.5m <sup>3</sup> /s 増量(0.3m <sup>3</sup> /s) 布目・白砂川 1.74m <sup>3</sup> /s

第 6 期拡張事業...当初計画では、平成 13 年 3 月竣工予定としていたが、給水量の伸びの鈍化等により、現在も事業を推進中である。